

大阪市立西淡路小学校 平成29年度 運営に関する計画 中間評価

大阪市立西淡路小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 《1学期の調査では達成できている》 ○ 平成29年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を75%以上にする。 《経年調査未実施》 ○ 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。 《中間評価時点では0である》 ○ 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。 《中間評価時点では昨年度より減少傾向である》 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災・減災教育の年間計画を見直し、避難訓練を年間3回以上実施する。また校内調査において、「安全な避難方法について考えることができましたか？」の項目を設定し、前期の結果より後期の結果が改善されるようにする。 <p style="text-align: right;">【安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p style="text-align: center;">《避難訓練の実施は計画通りできている、アンケートは未実施》B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ドリームリーダー(ゲストティーチャーやボランティアのこと)との出会いの場を設定し、人や職業に憧れる体験を進める。また校内調査において、「ゲストティーチャーやボランティアの人と学習するのは楽しい」の項目を設定し、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を85%以上にする。 <p style="text-align: right;">【道徳心・社会性の育成】</p> <p style="text-align: center;">《前期の学校生活アンケートでは82.2%であった》C</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の違いを認め合う集団作りを行い、課題を抱える児童、特別支援児童、外国につながりをもつ児童等が活躍し、共に生きる態度を育てる。また校内調査において「自分にはよいところがある」「友だちのよいところを見つけることができる」の項目について、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合をどちらも75%以上にする。 <p style="text-align: right;">【道徳心・社会性の育成】</p> <p>《・自分にはよいところがある81%、</p> <p style="text-align: center;">・友達の良いところを見つけることができる：後期のアンケートで確認》B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読書週間や朝の読書の時間を設定し、児童が本に親しみをもてるように学校図書館の活性化を進める。また校内調査において、「読書が好き」の項目を設定し「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を70%以上にする。 <p style="text-align: right;">【地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p style="text-align: center;">《後期のアンケートで確認》</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策番号1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 生活安全部会を実施し、児童の生活の様子や、いじめや暴力行為等について情報を共有する。</p> <hr/> <p>指標・ 校内のいじめアンケートを学期に1回実施し、認知したいじめについて話を聞き対応する。</p> <p>・ 学校生活アンケートを前期と後期に行い、その結果をまとめ、指導に生かす。</p>	B
<p>取組内容②【施策番号1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 家庭や地域と連携を図り、登校指導を行う。</p> <p>○ 必要に応じて、家庭に連絡したり家庭訪問をしたりなど、児童の看護体制を充実させる。</p> <hr/> <p>指標・ 校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。</p>	B
<p>取組内容③【施策番号1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 防災・減災教育の年間計画を見直し、避難訓練(引き渡し訓練も含む)を実施する。</p> <p>○ 自ら危険を回避するために主体的に行動する態度を育成する。</p> <hr/> <p>指標・ 避難訓練を年3回以上実施する。</p> <p>・ 学校生活アンケートを2回実施し、「安全な避難方法について考えることができましたか」の項目で、前期より後期の結果が上回るようにする。</p>	B
<p>取組内容④【施策番号2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>○ 学習内容に合わせて、ドリームリーダー(ゲストティーチャーやボランティアのこと)との学習の場を設定し、人や職業に憧れる体験を進める。</p> <hr/> <p>指標・ 各学年でゲストティーチャーを招いての学習を実施する。</p> <p>・ 校区や区内・市内の施設見学や会社・工場の見学等を各学年で実施する。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策番号2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>○ 一人ひとりの違いを認め合う集団作りを行い、課題を抱える児童、特別支援児童、外国につながりをもつ児童等が活躍し、共に生きる態度を育てる。</p> <p>○ 多文化交流会を計画実施し、世界の様々な文化にふれ、違いを認め合うことができる集団の育成に取り組む。</p> <p>○ 仲間を考える集会、週間を通して相手のことを理解し思いやれる心情を育てる。</p> <p>○ 異学年交流会を通して、互いの違いを認め理解し合う態度を育てる。</p> <hr/> <p>指標・ 仲間を考える集会・週間を年に2回設定し、取り組む。</p> <p>・ 多文化交流会（グローバルフェスタ等）を実施する。</p> <p>・ 児童についての共通理解を図る研修の場を年に3回以上実施する。</p>	C
<p>取組内容⑥【施策番号3、地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>○ 読書週間を実施する。</p> <p>○ 朝の読書、読み聞かせの時間を設定する。</p> <hr/> <p>指標・ 学校図書館を週8回、開館する。</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【施策番号1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>いじめのアンケートを実施し、児童の実態把握を行っている。認知した事案については各担任が聴き取りを行い対応している。緊急性あるいは甚大な事案については生活安全部会や人権推進委員会等で情報共有を行ってきた。学校生活アンケートについても予定通り実施できている。</p> <p>取組内容②【施策番号1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>登校指導については、地域の方も毎日児童の安全を見守るために立ってくださっている。また、保護者の方や教職員も登校時、地域に出て、児童の登校の様子を見守り続けている。今後も継続して指導する。</p> <p>取組内容③【施策番号1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>避難訓練(引き渡し訓練)は計画通り実施できている。しかし、児童が自ら安全について考え主体的に行動するまでには至っていないので、継続的に指導していく必要がある。</p> <p>取組内容④【施策番号2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>各学年でゲストティーチャーを招いたり、校区や市内の街探検や工場等の見学を実施したりできている。そのことによりいろいろな仕事に興味を持つことができた。また、実際に仕事の一部を体験し、車いすなどの体験活動を行うことで、様々な職業のことを知り、車いすの大変さを知ることができた。体験活動をしたことにより、周りの友だちや知っている人に優しくしようとしたりする心が育ってきている。</p> <p>取組内容⑤【施策番号2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>道徳心、社会の育成の観点から今年度も多文化交流会(グローバルフェスタ)を実施する予定になっている。しかし、特別支援の観点から行っていた異学年交流が出来ておらず、一人ひとりの違いを認めあう集団づくりはまだまだである。今後、1年生との仲よくなる会などを通して異学年交流を行うことで、互いの違いを認めあい理解しあう態度を育てていく。</p> <p>取組内容⑥【施策番号3、地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>読書週間はまだ行っていないが、シフカブールカのブックトーク、読み聞かせの学習に連動して行う予定である。また、新たに図書館ボランティアが来ることによって、週8回の図書館開放を行う。本と接する場を多く設定することで、少しでも「読書好き」の児童を増やしていく。</p>
後期への改善点
<p>① 継続して指導していくとともに、アンケートだけにとらわれず、日頃から児童の様子を見て、変化があれば聴き取りを必ず行うようにする。</p> <p>② 継続して家庭や地域と連携をはかり、不登校に該当する児童について校内調査を行う。</p> <p>③ 継続して計画的に指導し、学校生活アンケートの結果を集約、分析していく。</p> <p>④ 継続して、ドリームティーチャーを招いて様々な体験活動を行う。</p> <p>⑤ 2学期、3学期で多文化交流会や異学年交流を行い、互いの違いを認め理解し合う態度を育てる。</p> <p>⑥ 11月にシフカブールカに連動して読書週間を行い、読書に興味を持たせる。</p> <p>⑦ 校内の点検・補修等を計画的に行ったり、教材や教具の利用を推進するための利用方法の再確認をしたりなど、教育環境整備を進める。</p>

(様式 2)

(様式 2)

大阪市立西淡路小学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none">○ 平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。 (標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと) 《経年調査未実施》○ 平成29年度の小学校学力経年調査における正答率54%以下(到達度C)の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 《経年調査未実施》○ 平成29年度の小学校学力経年調査における正答率75%以上(到達度A)の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 《経年調査未実施》○ 平成29年度の小学校学力経年調査(質問紙調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 《経年調査未実施》○ 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である(長座体前屈)の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。 《男子29.53→27.76 女子34.60→32.77 となりどちらも減少していた》C <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">○ 平成 29 年度後期の学校アンケートにおける「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習(予習・復習など)をしていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、前期より増加させる。 《前期のアンケートでは、58.8%であった》○ 平成 29 年度の養護日誌の記録で校内のけがの件数を前年度より減少させる。 《4～9月で987件であった》	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策番号5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○ 友達と相互作用が起こるような協働的な活動を授業に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)を推進する。</p> <hr/> <p>指標・ 協働学習できる課題解決のためのペアやグループ学習を3～6年は月に1回、1・2年は、学期に1回以上取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びをデザインするための一つの手段として自主学習を週に1回以上する。 ・ 主体的にかかわりながら、知識や情報を構成していくための手段として、学期に1回以上ICTや図書を利用する。 	A
<p>取組内容②【施策番号6、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○ 小中一貫教育を推進し、6年生の中学校登校を昨年度(20回)程度実施する。また、教職員の研修会を実施するとともに、授業研究会の相互参加を行う。</p> <hr/> <p>指標・ 6年生の中学校登校を20回程度実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行事による交流について検討する。 ・ 小中合同の教職員の全体研修会を1回以上行う。 ・ 互いの授業研究会に参加する。 	B
<p>取組内容③【施策番号6、国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>○ 本年度「意欲的に学び続ける児童の育成～ICTを活用し学びに向かう力を育てる学習活動の工夫～」を研究主題とし、授業研究に取り組む。</p> <hr/> <p>指標・ 実施計画どおり(別紙参照)各学年で年間1回以上の授業研究に取り組み、年間2回のICT学校公開を実施する。</p>	A
<p>取組内容④【施策番号7、健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○ 体づくりの運動や主運動につなぐための基礎感覚づくりの運動を体育の授業のアップタイムに5分間取り入れる。</p> <p>○ けがなく安全に生活する方法を指導するとともに。校内の環境を整備する。</p> <hr/> <p>指標・ 基礎感覚づくりの運動を取り入れた準備運動ガイドを6月までに作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けが予防の指導や環境の整備をその都度行う。 ・ 健康委員会を中心に、その都度全校に呼びかける。 ・ 校内安全点検を月1回行う。 	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【施策番号5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学校アンケート「宿題以外の学習に取り組んでいる」（自主学習）の結果、昨年度より「している」と答えた児童は昨年度より減少した。しかし保護者アンケートでは、少しずつ増えている。生活週間など家庭へ啓発することで、保護者の意識は高くなっているが、児童自身は目標を高く設定しているためではないかと考えられる。また、「学び合い」に焦点をしぼり ICT や図書の活用法を工夫するよう心がけている。</p> <p>取組内容②【施策番号6、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 6年生の中学校登校を計画通り実施している。中2が来校しソーラン節を踊り交流したり、クラブ交流は行ったりしたが、行事としての交流は準備段階である。また東淀川人権教育研究会を活用し研究授業を行った。</p> <p>取組内容③【施策番号6、国際社会において生き抜く力の育成】 計画通り各学年で授業研究に取り組んでいる。年間2回の新任対象の公開授業を含め3回の ICT 学校公開を実施した。また、メンター研修やプログラミング研修なども行い、教材研究を重ね、研究を深めている。</p> <p>取組内容④【施策番号7、健康や体力を保持増進する力の育成】 健康委員会を中心に全校児童によびかけ、けが予防の指導や環境の整備などを行ったり、校内安全点検も月1回実施したりしている。</p>
後期への改善点
<p>① 自主学習をしていると答える児童が減少傾向であることをふまえて、学年に応じた自主学習の在り方を見直し、実態に応じた実践を積み重ねていく。</p> <p>② 教職員の小中連携として、12月・1月に授業見学会を行う予定をしている。</p> <p>③ モデル校としてのまとめの来年度に向けて、授業研究の持ち方やまとめ方について年度内に方向性を決める必要がある。また、持ち帰り学習のねらいや方法について共通理解し、実践を増やしていく方策を考える必要がある。</p> <p>④ 基礎感覚づくりの運動を準備運動内に取り入れられるように、準備運動ガイドを作成し、活用していく計画を進める。</p>

※シートが1枚に収まらないときは、複数枚になってもさしつかえありません。